



マーチィ's ROOM

マーチィの掲示板

国土交通大学校での研修を終えて

群馬県 都市計画課 企画推進係 山本 凌也

7月8日～18日までの11日間、国土交通大学校における土地区画整理事業についての研修に参加しました。私は都市計画課には4月からの配属なので、土地区画整理事業の実務経験が乏しい状態での研修参加でした。研修で学ぶ内容のほとんどが初めて見聞きする内容だったので、研修を通して区画整理の基礎をきちんと正しく定着させたいと思いました。また、学ぶだけではなく、演習や課題研究において、他の経験のある受講者の補助で終わらずに、学んだ知識を活かし自身の手でアウトプットを生みたいとも思いました。

本研修における座学講義では、土地区画整理事業に関する制度や計算方法を、演習や事例紹介を交えて学ぶことができました。中でも換地計画の講義が個人的にはとても印象に残っています。事業のスタートからゴールまで、どういったステップがあり、どのような資料を作成するのかを換地計画の講義から学ぶことができました。特に建物を従前地から換地先へ移転する際、土地の登記上の扱いはどのような処理となっているのか疑問でしたが、仮換地指定によって土地の使用収益権を移せると聞いてとても納得しました。そのほか近年事例としても多い再開発との一体的な施行についての講義では、土地区画整理事業だけでなく市街地再開発事業についても深く理解することができ、事業間の連携について学ぶことができました。

研修期間を通して行うゼミナール課題研究では、沼袋駅周辺を対象地区として設定し、土地区画整理の手法を活かしたまちづくり計画の策定に取り組みました。事前に現地視察を行いました。対象地区へは初めての訪問であったため、地域の様子がとても新鮮に映りました。中野区職員の方の説明もあり、課題抽出は比較的スムーズにできたのですが、それらを解消するための整備計画を作るのは苦勞しました。課題発表では鉄道の地下化による地域分断の解消を狙ったウォークブルなまちづくりを計画し、また浸水想定区域にも含まれる地域であったため、防災力も向上できる地域づくりを提案しました。座学とは違い、課題研究は検討作業を通じて経験のある職員との交流ができ、学んだ知識を発表資料へ落とし込むことができたので、講義の応用や復習の一面もあると感じました。発表後の講評では、特に力を入れた防災力の向上やウォークブルな都市空間の点を評価いただけたので、全体を通しての成果を実感できました。

今回の研修では、土地区画整理事業における換地や土地評価、税制や市街地再開発事業との連携など、基礎となる部分からその応用まで幅広く学ぶことができました。比較的長いようで、一から学ぶには短いような研修でしたが、基礎知識を定着できる結果となりました。業務の合間に研修資料を見直し、定着状態を維持させていきたいと思えます。

